

家庭菜園

Q & A

問題解決!



農産部 担い手課 営農主幹
検校 哲也

Q1 紫陽花(アジサイ)を赤くしようと消石灰を土に混ぜたが青いままで。なぜでしょうか?

A1 アジサイの花の色は、青、紫、赤、ピンクなど多様です。

色は、土壌酸度(pH)によって大きく影響を受け、酸性土壌では青に、アルカリ性では赤になることはよく知られています。

そのメカニズムは、酸性土壌では土の中にあるアルミニウムが溶け出し、植物に吸収されて細胞内のアントシアニン色素と結合して、花の色が青になるのです。

逆に、アルカリ性では土中のアルミニウムが溶けず、吸収されないために青色が発色せず、アジサイが持つアントシアニン色素本来の色の赤みが出



てくるのです。

だから、石灰でアルカリ土壌に変えれば赤色になりそうです。しかし、アジサイがアルミニウムを吸えない場合があります。リン酸が多いと、アルミニウムを吸着して溶けなくしてしまい、アジサイがアルミニウムを吸えません。

pH調整したのに赤色に変化しないのは、リン酸過多、肥料が多かったかもしれません。

Q2 アスパラガス、「一年目は、お試し収穫だけだよ」と聞きましたが、なぜですか?

A2 アスパラガスは、ドリフト剤でおなじみのアスパラギン酸をはじめ多くの栄養素をバランスよく含む健康野菜です。

植え付けてから十年ほど毎年収穫できます。ただし、1〜2年は収穫せず、地下茎と根を育てます。待つていられない人は、写真のような大苗を植えれば、一年目からある程度は収穫できます。よく乾く日当たりのよい場所に植えますが、根が四方に広がり、草丈も2mと育ちます。ちよつと広めの場所を選んでください。また、十年育てますので、たい肥など有機物をたっぷり入れて土づくりをしておきます。

アスパラガスが十年も次から次へと若い茎を立ち上げるのは根の力によるものです。大きく育った親茎が光合成で作った養分を貯蔵根と呼ばれる太いうどんのような根に蓄えます。

収穫が終わって残した親茎は大事に育てます。支柱を立て

て、ひもで囲って、風に倒されないようにします。その後、秋まで月1回、株元に化成肥料を(大さじ4杯)追肥し、土寄せしておく、来春には若茎がよきよき出てきますよ。



Q3 ミヨウガがだんだん消えてしまいます。どうしたらよいのでしょうか?

A3 ミヨウガは、3〜4年栽培すると、地下茎が込み合ってきて生長が止まってしまう。植え替えましょう。

秋になったら(十月中旬)、別の場所や新しいプランターに移

します(連作障害を避けるため)。たい肥と苦土石灰を混ぜ込んで土もリフレッシュします。植える地下茎は大きく15cmくらいに切ります。小さいと、芽の出がさみしくなっちゃいますよ。



オンライン農業塾
はじめました!

▼動画はコチラ▼



ナスの芽かき



オクラの間引き



2020 8 月の運勢
双子座 5/21~6/21

全体運
健康運

友人とのコミュニケーションでライフスタイルが活性化。「初耳」のことにトライして。面白い発見があるはず
家族と一緒に盛り上げられるスポーツが◎

幸運を呼ぶ食べ物 カボチャ